

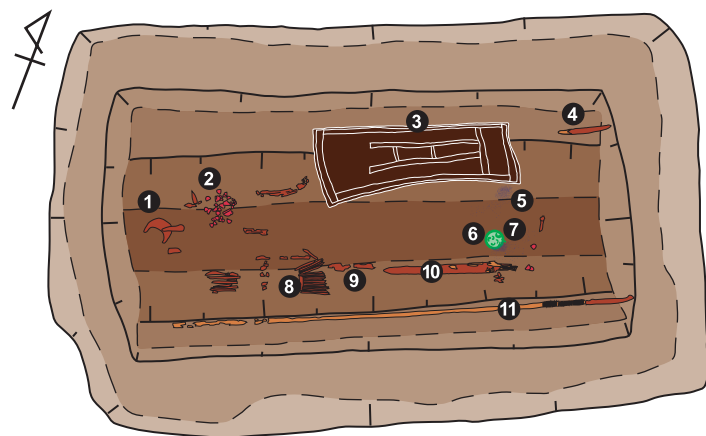


古墳のなかはどうなってるの？

なかはどうなっているのか、それは発掘調査で調べてみないとわからない。ふくいでも、みんなが「えっ！！」とおどろいた、いろんな発見があったんだよ。それらをちょっとのぞいてみよう。



※写真：福井市文化財保護センター



- ① 鋤先(すきさき)
- ② 豎櫛(たてくし)かみかざり
- ③ 盾(たて)
- ④ ほこやりに似た武器
- ⑤ 小玉 アクセサリー？
- ⑥ 銅鏡
- ⑦ まが玉
- ⑧ やじり
- ⑨ 弓
- ⑩ 鉄剣
- ⑪ やり

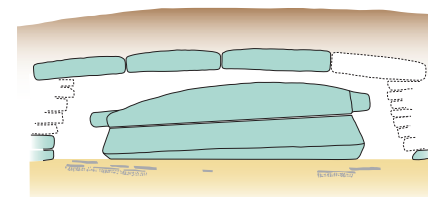
はなのたにさんちよう 花野谷2号墳と山頂古墳

花野谷2号墳(花野谷町)は古墳時代中ごろにつくられた前方後円墳だ。木でできた棺(ひつぎ)に亡くなった人をおさめ、いっしょに銅鏡などを入れ、さらに棺のまわりに鉄の武器などをそえて、手厚く葬っている。アクセサリーとして身につけたもの、魔よけの意味のあるもの、葬られた人の力の大きさを示す宝物など、古墳の中から見つかるものたちにはいろいろな意味があるみたいだ。

また、足羽山の山頂古墳のように、「石室」という、石を積んでつくった空間に棺をおさめることもあるよ。



石室の復元断面図



(斎藤優『足羽山の古墳』より)一部改変

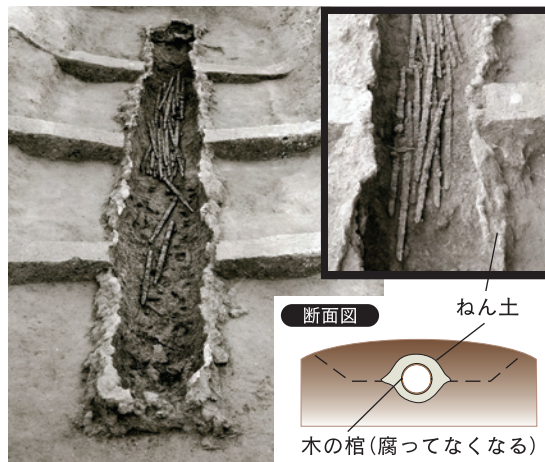
石を積んで作った空間(石室)におさめられていた石棺(足羽山・山頂古墳)

たつがおか
龍ヶ岡古墳(足羽山)



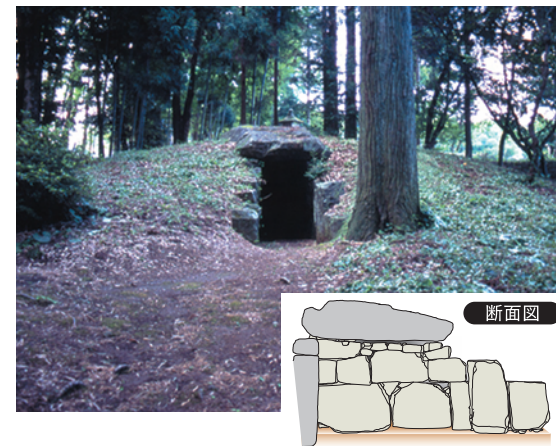
足羽山は笏谷石しやくだにいしという青くきれいで、加工かこうしやすい石材のとれる山なんだ。この山にも古墳が多くつくられ、その笏谷石でつくられた石棺が古墳に埋められていたのが見つかったよ。

てんじんやま
天神山7号墳



木の棺くを粘土ねんどで包む「粘土槨ねんどかく」というお墓のつくり方だ。写真の真ん中のモコモコした空洞くきのものが粘土。包まれていた木の棺は腐って無くなっていただけ、中にたくさんの鉄の刀や剣がおさめられていた。

みずきり
水切2号墳



古墳時代も後期になると、上から穴を掘って埋めるのではなく、石を積んで横穴をつくってその中に葬る方法が生まれた。この方法だと、何回もくりかえし古墳の中に葬ることができるよね。1人のためだけでなく、家族のためのお墓ともいえるね。

むかしのひとは、古墳に埋葬するためにいろんな工夫をしていたんだね。

